

News Letter

第 1 号

2015年度の活動概要

○ 公益財団法人ベネッセこども基金

〒163-0416東京都新宿区西新宿2丁目1-1

新宿三井ビルディング

TEL 03-5320-3504 FAX 03-5321-6360

2016年4月発行

公益財団法人として 1年を迎えました

「ベネッセこども基金」は2014年10月31日に、一般財団として設立いたしました。翌2015年4月1日に内閣府の認定を受け公益財団法人に移行し、1年を迎えました。

「子どもたちが、自ら学ぼう、伸びようとする力を十分に発揮できる社会を」という想いのもと、この1年間、子どもたちの生活・学習の基盤である安心・安全な環境づくりと、経済的事情や重い病気・障がいなどの困難を抱える子どもたちの学びの機会支援を中心に活動を行ってまいりました。

当財団の運営は、財団への支援にご賛同くださった63万8,715名の皆さまとベネッセグループ等からの寄附により支えられています。

また、活動に際しては、志を同じくする団体や専門家のの方々とはさまざまな形で連携し、お力添えをいただきながら進めてまいりました。

ご支援、ご助力をいただきました皆さまへ深く感謝申し上げますとともに、2015年度の活動概要についてご報告させていただきます。

ご報告事項

- 01 子どもの安心・安全を守るための活動
- 02 経済的困難を抱える子どもの学習支援
- 03 重い病気や障がいを抱える子どもの学習支援
- 04 助成事業

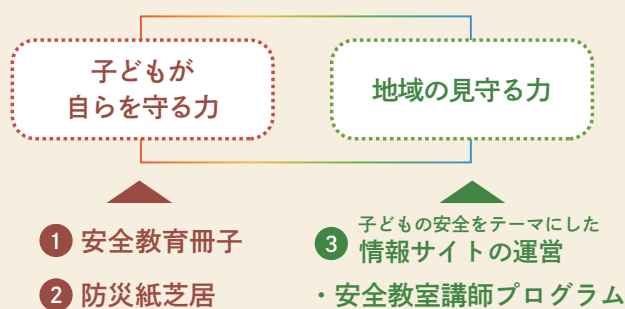


01 子どもの安心・安全を守るための活動

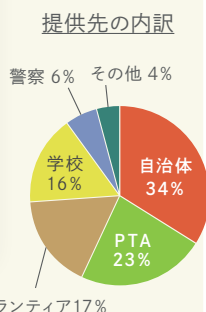
子どもが安心して学びと向かいあえる環境には、「子ども自身が自分を守る力を育むこと」と、「子どもの成長を皆で見守る地域づくり」という両輪の推進が重要です。近年は、警察や学校、行政、民間(PTAや防犯ボランティアなど)が一体となった取り組みが広がっています。

当財団では、この両輪の推進を意識し、ベネッセの教材作りでの知見をいかした子ども向け教材提供、安全な環境づくりに取り組む方々向けのプログラムや情報サイト運営などの地域活動の支援、という2つの柱でこの1年間の活動を進めてきました。

子どもが安心して学べる環境



1 小学校低～中学年向け 安全教育冊子の制作・普及



2 防災教育紙芝居の制作・普及



※(株)ベネッセコーポレーションから素材となるお話を無償で譲り受け、キャラクターの使用許可を得て企画制作しました。

3 子どもの安全をテーマにした 情報サイトの運営



「子どもの安全サポーターズひろば」
<http://benesse-kodomokikin.or.jp/activity/anzen/index.html>

2015年春から希望者への無償提供を開始した冊子「子どもの安全・安心ハンドブック」は、小学校低～中学年向けにわかりやすく親しみやすい語り口・デザインの誌面を通して、子どもが実践しやすい知識を親子で学べる内容です。この1年間に約3.5万部がご活用され、高い評価をいただいています。

東日本大震災から5年の節目の取り組みとして、防災教育紙芝居「じしんのときのおやくそく」を制作、保育園・幼稚園に無償でお届けしています。就学前の子どもたちが地震のときに自らを守るために取るべき行動を学ぶことができるものです。2016年4月現在、全国約6,000園からのお申し込みをいただいています。

子どもたちの安全をテーマにしたサイト「子どもの安全サポーターズひろば」をオープンしました。
”地域で子どもの安全を守る活動に取り組む方々をつなぎ、元気にする場”をコンセプトに、当財団オリジナルの教材、講演素材、活動のヒントとなるコラムなどを提供していきます。

02 経済的困難を抱える子どもの学習支援

6人にひとりの子どもが相対的貧困にあるなか、学びたいと考える子どもたちに学習の機会を提供すべく、様々な取り組みが全国で始まっています。公的な支援の届きにくい課題を抱える子どもたちをサポートする団体を支援し、発展を促進していくことで、経済的困難を抱える子どもたちへの学習機会提供や学習環境作りなどに取り組みます。

経済的困難を抱える子どもの 学習支援に取り組む団体への助成を実施



NPO等の民間団体を対象に公募を行い、事業助成を通じた子どもの学習機会拡大と課題の顕在化に取り組んでいます。2015年度は68件のご応募をいただき、テーマの目的や緊急性、モデル性などの観点で選考した結果、12団体の事業への助成を実施しました。

助成団体交流会の実施

2014年度の助成団体(12団体)を対象に、2015年11月に「助成団体交流会」を実施しました。公益財団法人日本財団からゲストをお招きし、行政の動きについてレクチャーをいただくとともに、各団体からの事業紹介や意見交換等を行いました。金銭的な支援にとどまらず、横のつながりづくりや団体同士の学び合いのサポートも重視し取り組んでいます。



▲助成先のひとつ「NPO法人いるかねっと」では、無料学習会を25回開催し、200名以上の子どもが参加(2015年12月時点)

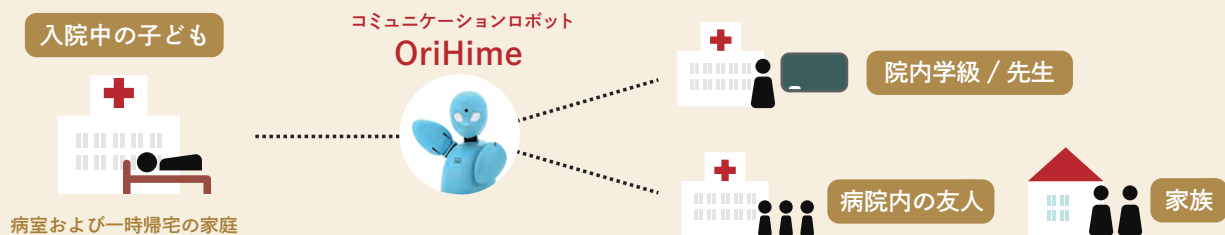
03 重い病気や障がいを抱える子どもの学習支援

重い病気や障がいにより、学びへの意欲向上や学習に対する支援を必要としている子どもや保護者の方々の不安や課題を少しでも減らせるよう、学習サポートや情報提供に取り組んでいます。また地域で活動されている各団体への助成を通して、より多くの子どもたちに学習の支援が行き届くことを目指しています。

コミュニケーションロボットを活用して院内学級での学習を支援

コミュニケーションロボット“OriHime”は、カメラ・マイク・スピーカーが搭載された小さな人型ロボットです。使用者の分身として、友人や家族とのコミュニケーションに活用されるOriHimeを院内学級などに導入することにより、病気で入院している子どもたちの学習支援につなげています。

OriHime を使った学習支援の仕組み



2015年6月より国立研究開発法人成育医療研究センター内の「光明特別支援学校そよ風分教室」にて、OriHimeのテスト導入を始めています。

OriHimeがあることにより、病室から出られない子どもでも、ベッドにしながら、そよ風分教室で行われている授業や行事に参加することができます。実際に利用された子どもの様子について、教室の先生からは「一度も教室登校をしたことがない生徒だったので、教室の様子やお友だちの様子がわかり嬉しそうだった」という声もいただいています。OriHimeは学習機会の提供だけではなく、意欲の向上やコミュニケーションのサポートにも役立っています。



そよ風分教室でOriHimeを使って授業に参加する様子▲

発達障がいに関する情報提供サイト「エール＆リンク」の運営

発達障がいをもつお子さまの保護者や周囲の方々をサポートする情報提供を目的としたサイト「エール＆リンク」を運営しています。当サイトでは、発達障がいの専門家による監修のもと、発達障がいをもつお子さんが日常生活で直面するさまざまな問題や、保護者の方々が抱えていらっしゃる悩みの解決に役立つ情報を発信しています。

< 主な内容 >

- ・発達障がいについての基礎知識
- ・地域の相談先一覧(47都道府県対応)
- ・日常のさまざまなシーンにおける対応の事例
- ・子どもの対応に関する専門家アドバイス
- ・サポートに取り組む方々へのインタビュー
- ・発達障がいに関するニュース



1つのシーンに対して、実際に有効だった対応事例を複数紹介しています▲

長期入院や療養中の子どもたちの学習支援に取り組む団体への助成を実施



▲助成先のひとつ「NPO法人ポケットサポート」の病院内学級での活動の様子

病気を抱える子どもたちは、長期入院や療養により学習の機会が得にくく、また学習に関する公的な支援も行き届きにくい状況にあります。

そんな子どもたちへの学習支援の取り組みがより多くの子どもたちのもとへ届くことを目指し、同テーマで支援活動に取り組む団体への助成事業を行っています。

第1回目となる2015年度は、7団体の事業への助成を実施しました。民間団体の活動基盤が確立しきれていない本領域においては、モデル性を重視し選考を行いました。

よい活動を顕在化し、モデルとして共有したり広げていくサポートにも取り組んでいます。

04 助成事業

子どもの学びの機会支援に取り組む全国の団体の活動を支援することを通じて、年間3つのテーマで、子どもを取り巻く社会課題に取り組みます。

3つの助成事業

重い病気を抱える子どもの
学習支援活動助成

経済的困難を抱える子どもたちの
学習支援活動助成

災害地の子どもたちの
学びや育ちの支援活動助成

※2015年度は東日本大震災の被災地における活動を助成

助成事業の年間サイクル

	当年度	翌年度
経済的困難	11月～3月 募集・選考	4月～3月 活動期間
重い病気	7月～12月 募集・選考	1月～12月 活動期間
災害地	11月～3月 募集・選考	4月～3月 活動期間

※【選考について】教育や団体運営に関する外部の識者で構成された「助成選考委員会」で厳正な審査を行い、理事会の決議を経て決定しています

【参考:2015年度に助成を決定した事業の一覧】

2015年度 重い病気を抱える子どもの学習支援活動助成

特定非営利活動法人 On Pal

病院の入院児を対象とした音楽授業及びコンサートの実施

一般社団法人 Kukurū

居宅訪問型保育事業活動の促進

一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト

重い病気を抱える子どものまなびのコーディネーション&環境整備事業

特定非営利活動法人 サクセスこども総合基金

治療中の子どもたちの自立をサポートするプロジェクト

特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス

小児がんをはじめ、難病の子ども達の学校復帰や自立を支援する学習支援事業

公益社団法人 難病の子どもとその家族への夢を

重い病気を抱える子どもたちの復学支援プロジェクト(児童・生徒・教師・父兄対象の復学支援学習環境作り)

特定非営利活動法人 ポケットサポート

自宅療養中の病弱児と学習支援者を双方向Webで結ぶ学習支援事業

助成総額:10,915,626円

2015年度 経済的困難を抱える子どもたちの学習支援活動助成

特定非営利活動法人 いるかねっと

貧困連鎖解消のための子どもの学習支援事業「マナビバ」の開催

特定非営利活動法人 関西国際交流団体協議会

外国にルーツのある子どもの放課後学習支援「Minamiこども教室」

一般社団法人 ぎふ学習支援ネットワーク

岐阜県内学習支援活動の中間支援および周辺フォローに関する事業

特定非営利活動法人 くまもとスロワーク・スクール

「生活困窮世帯の子ども・若者が集い、食事し、学習するキミニモデキル食堂」設立

一般社団法人 彩の国子ども・若者支援ネットワーク

食事支援ステップアップ事業

特定非営利活動法人 多文化共生センター大阪

地域で支えよう!外国にルーツをもつ子どもたちへの学習支援事業

特定非営利活動法人 場とつながりの研究センター

地域が育てる、子どもの自己肯定感を育む「居場所」機能を持った持続可能を目指した寺子屋運営および人材育成事業

特定非営利活動法人 ビーンズふくしま

経済的困難家庭の子どもへの課外活動サポート事業

特定非営利活動法人 ひだまりの丘

児童養護施設や里親などで暮らす子どもたちに学習サポートする学習支援者を養成し、今後の社会的養護分野の有効な学習支援方法を提言する事業

一般財団法人 ヒューマンライツ協会

フリースペース「マナビバ」(高校中退者等再チャレンジ支援事業)

特定非営利活動法人 まちの塾フリービー

高校生学習支援プログラム

一般社団法人 みらいTALK

生活困窮家庭学習支援事業

特定非営利活動法人 もりおかユースポート

通所困難地域に対する送迎と支援対象を広げる学習支援サポート事業

助成総額:20,466,026円

2015年度 災害地の子どもたちの学びや育ちの支援活動助成

特定非営利活動法人 アスイク

被災地で増加している不登校のこどもたちのフリースクール事業

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

南相馬の子どもたちと記録映画をつくる

～「Work in Progress」手法を取り入れた映像制作事業および上映活動によるエンパワメント

特定非営利活動法人 おいたまサロン

避難世帯の子どもたちへの学習支援と子どもと家族のための居場所づくり事業

特定非営利活動法人 キッズドア

震災により経済的困難が続く仙台市で高校生向け学習支援機能付き居場所の運営

一般社団法人 子どものエンパワメントいわて

「学びの部屋」釜石(唐丹中学校・釜石東中学校)

「学びの部屋」大船渡(赤崎公民館・太田仮設)

特定非営利活動法人 底上げ

気仙沼市、南三陸町における仮設住宅に入居している小中高生を対象とした学習コミュニティ支援活動

特定非営利活動法人 地球対話ラボ

インドネシア・アチェと東松島市の子ども国際交流事業「被災地から未来への対話/壁画の架け橋」

特定非営利活動法人 バクト

陸前高田市内における『子ども支援ネットワーク会議』の継続運営

一般社団法人 まなびの森

山元まなびの森構想

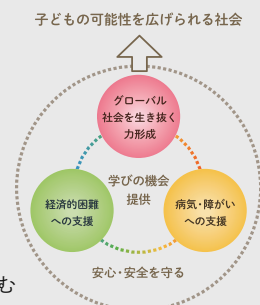
特定非営利活動法人 亘理いちごっこ

亘理こどもサポート事業

助成総額:18,033,840円

団体概要

未来ある子どもたちが
安心して学習に取り組める
環境のもとで、
自ら可能性を広げられる
社会を目指し、
子どもたちを取り巻く
社会的な課題の解決および
多様な学びの機会の提供に取り組む



名 称: 公益財団法人ベネッセこども基金

(Benesse Foundation for Children.)

代表者: 理事長 小林 登

所在地: 〒163-0416 東京都新宿区西新宿 2-1-1 新宿三井ビルディング

電 話: 03-5320-3504

WEB: <http://benesse-kodomokikin.or.jp/>

設 立: 2014年(平成26年)10月31日

※公益財団法人移行日:2015年(平成27年)4月1日